



スタンドホーム 標準仕様

～より楽しく幸せな住まいを創る～

断熱性能

耐震等級

長期優良住宅

仕様相談可

安心の暮らしを支える確かな技術。

確かな技術を駆使した安全性。～安心して暮らせる住宅づくりを～

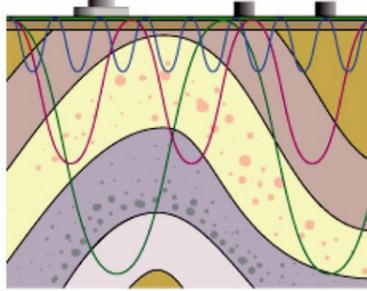
住宅の絶対条件は安心できるかどうかです。いかに大雨が降り続いても、室内に一滴の雨水も入ってこない。また、大地震が来ようとも、住宅内では何事もなかったように家は直立不動のまま。住宅とは、住人を守るシェルターでなければなりません。なにが起ころうとも、我が家だけは安全であるという安心感が家族全員を深い睡眠へいざない、心に潤いが生まれる。

点ではなく面での地盤調査

住宅地盤調査として広く行われているスウェーデン式サウンディング試験(SS試験)と表面波探査法による地盤調査との大きな違いは、点ではなく面で調査していることにあります。

表面波探査法式地盤調査方法

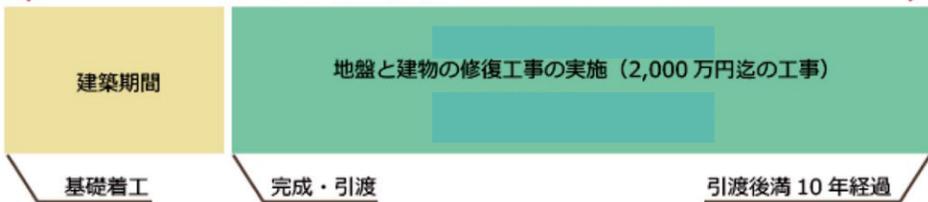
地面をゆらして、その“ゆれ”の伝わる速さにより、地盤の硬軟をデータにより判断します。データの変化から、地層の境界を読み取り、各層に支持力がどのくらいあるのかを知ることができます。



安心・安全の10年保証

表面波探査法による地盤調査の結果に基づいて適切な地業・地盤対策・改良工事及び基礎の設計・施工を行ったにもかかわらず、不同沈下が発生し建物に障害が生じた場合、地盤と建物の修復工事を行います。

← 建築中も保証! 引渡日より満 10年経過まで →



基礎着工時から地盤保証が開始しますので、建築中の不同沈下に対しても保証が適用されます。

防湿シートの効果

地面からの湿気が床下に上がってくるのを防ぐため、割栗石地業を終えた後、防湿シートを敷き詰めてから、捨てコンクリートを打ち込みます。見た目には「こんなので効果があるのか?」と思われるがちですが、シートを敷き詰め終えてしばらくするとシートの中は水滴だらけになります。地面から上がってくる湿気というのはそのくらい多いのです。



ベタ基礎+防湿シートの効果

1.耐震性

基礎が一体の鉄筋コンクリート耐圧版になっているので、地震が来ても全体で荷重を受ける構造になっています。

2.不同沈下の抑制

基礎底板が均一ですから、上からの荷重を平均に地面に伝え、部分的な沈下を押さえます。また、万一地盤が下がったとしても平均に沈降するので、建具や床の狂いも抑制できます。

3.防蟻効果

基礎に隙間がありませんから、下の地面から直接シロアリが侵入するのを防ぐことができます。また、防蟻用に土壌に薬品を散布しなくてもよいので、環境上でも有効です。

4.防湿効果

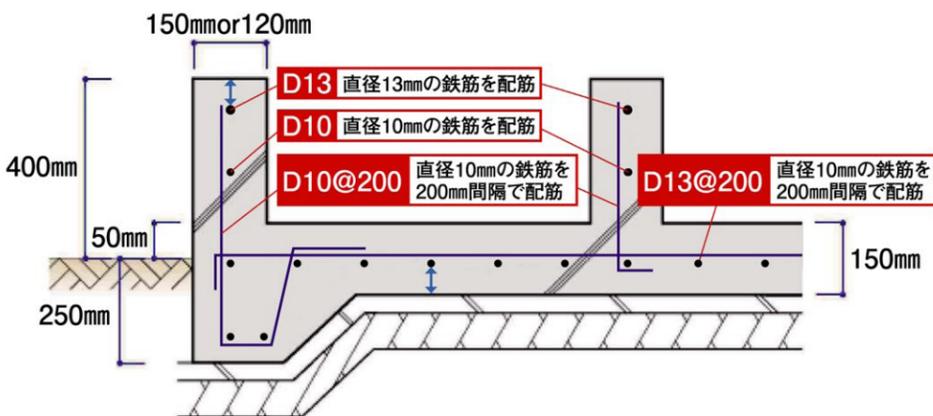
防湿シートをコンクリートの下に敷くことで、下からの湿気をシャットアウトします。縁の下の保存状態を改善し、耐久性も向上します。

基礎工事

基礎配筋工事完了時に鉄筋の太さや間隔、定着や継手などの配筋状況を図面と照合しながら厳しくチェックします。

ベタ基礎

基礎の立上りだけでなく、底板一面が鉄筋コンクリートになっている基礎です。家の荷重を底板全体で受け止め、面で支えます。また、地面をコンクリートで覆うので地面から上がってくる湿気を防ぎ、シロアリも侵入しにくくなります。



基礎パッキン工法

基礎パッキンの機能は、基礎と土台の間に隙間を開けて、床下の換気を促すことにあります。これにより土台から基礎を分離させるので、土台からの湿気が基礎へ浸透するのを防ぎ建物の耐久性が向上します。建物の周囲にわたって通気孔ができることになり、全体的に風が通るので、基礎を欠きこんで換気孔を設ける場合に比べ、通気量が大幅に多くなります。



防蟻工事

シロアリは日本国中どこにでも生息しています。シロアリは加害力の強烈な昆虫ですから、絶対に発生を阻止しなくてはなりません。

防湿シートはもちろんのこと、土台より1mの高さまで(公社)日本しろあり対策協会の標準仕様書に基づいて専門業者が防除施工いたします。

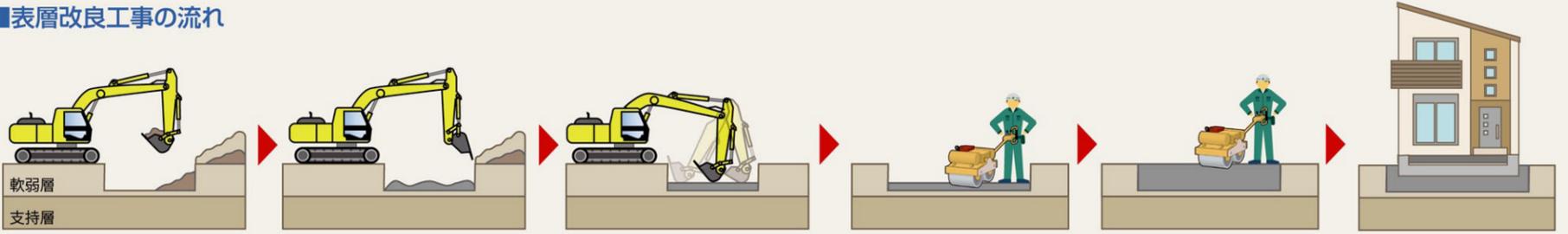


住まいの安心を確かなものにする地盤改良。

表層改良工事

表層改良とは軟弱な地盤層の強度を上げ、下部の良好地盤層と一体化させることにより地盤の耐力を強化する工法です。軟弱な地盤と土とセメント系固形材を混合攪拌し固く化させ、不同沈下を防ぎます。改良は地表面から約2m程度の範囲内で行います。固化材による植物などへの影響はありません。

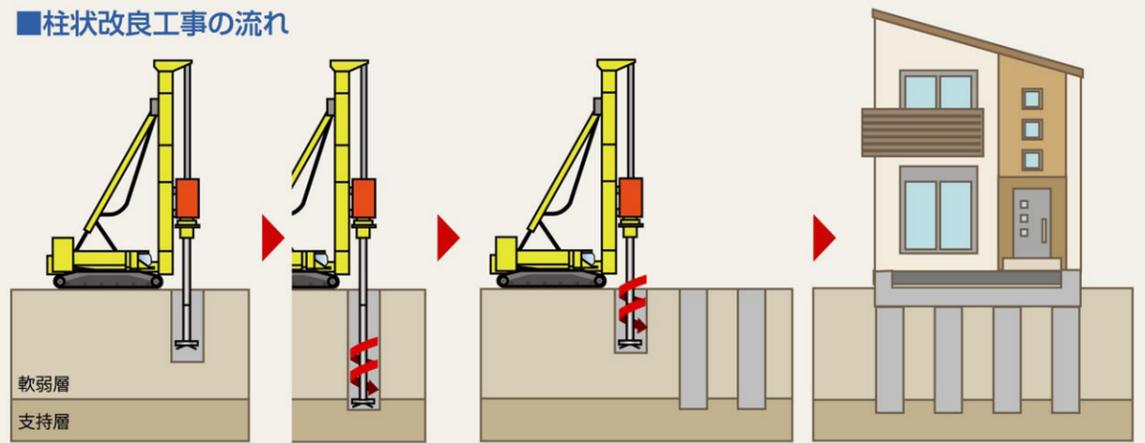
■表層改良工事の流れ



柱状改良工事

柱状改良とは軟弱地盤が2m～8m以下の深さの場合に土の中にコンクリートの柱を造る工法です。セメントを土に添加しながら攪拌し、コンクリートの柱を地中に造ります。硬い地盤で支え、土による摩擦力も加わり、建物の荷重をよりしっかりと支える構造になっております。

■柱状改良工事の流れ

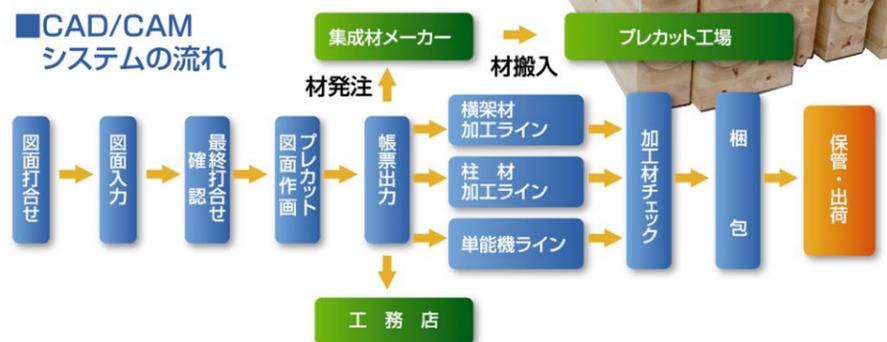


品質管理万全の工場で作られる木材加工(プレカット)を採用。

プレカット工法とは

プレカットとは木造住宅の柱や梁の継ぎ手、仕口を従来は墨付けに従い、手工具で加工していたものを精密な全自動機械で行なう技術です。専門機械により、加工精度の高い柱や梁、羽板材、パネル等を生産することが可能になりましたので、工期の短縮やコストダウンに役立ちます。高品質・高精度の構造部材の生産により、快適で信頼性の高い住まいが供給できるシステムとなっております。また、当社では「筋交い」にもプレカットを採用しております。

■CAD/CAMシステムの流れ



プレカットの特長

1. 高速加工による工期の短縮

2. コンピュータ制御による高精度・高品質の部材の提供

3. 現場工事計画のスピード化

4. 大工職人不足の解消

寸法信頼性

徹底した水分管理をしているため、施工後の寸法変化が小さく、冷暖房設備の部屋に適しております。

品質信頼性

十分な製造管理を行っており、安定した品質をご提供いたします。

安定供給の信頼性

ご希望の数量・品質・製品をご希望にそった納期でお届けすることができます。

経済性

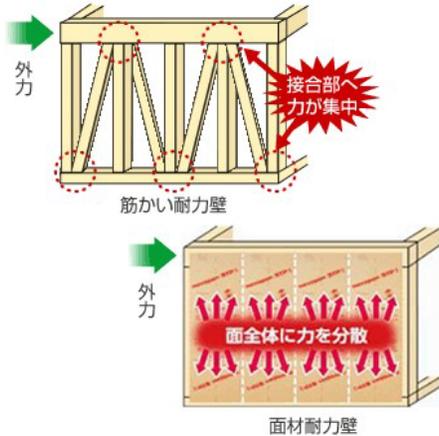
工場で機械による仕口加工を施しており、経済的です。現場作業では、スムーズに組み立て作業ができ、工期の短縮が可能です。



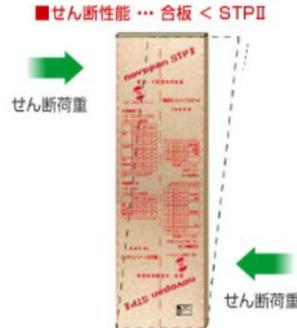
地震台風に強い高い壁倍率。

● 筋かい耐力壁と面材耐力壁の違い

筋かい耐力壁では、接合部などへ力が集中するのに対し、novopan STP II は面全体に力が分散します。



● せん断剛性は合板の2倍以上



■せん断性能 … 合板 < STP II

novopan STP II は、9mm厚の木造建築物用耐力面材です。

● 木造軸組工法（在来）



■ 木造軸組工法

青字は告示、赤字は大臣認定の倍率

種類	壁倍率		
	外@150,中@150	外@100,中@200	外@75,中@150
大壁	2.5	2.9	4.3
大壁床勝ち	2.5	3.0	4.3
真壁	2.5	2.6	4.0
真壁床勝ち	2.5	2.6	4.0

建設省告示第1100号

大臣認定 FRM-0177

大臣認定 FRM-0242

大臣認定 FRM-0179

建設省告示第1100号

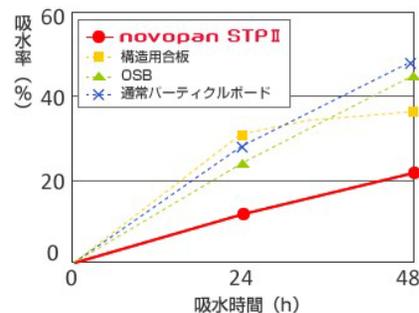
● 雨漏れに強い、高い耐水性能

novopan STP II は、耐水性の高い接着剤を使用しており、水に強い構造です。

水の浸入を抑制することで吸水による厚さ膨張を極めて小さくしました。



■ 48時間水中浸漬後の吸水率



● ホルムアルデヒド対策

非ホルムアルデヒド系接着剤を使用しているため、安心してお使いいただくことができます。
(ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆)

● 長期優良住宅

項目	認定基準	novopan STP II
耐震性	極めてまれに発生する地震※による力の1.25倍の力に対して倒壊、崩壊しない程度	novopan STP II は壁倍率が高い為、壁量の確保が容易になります
劣化対策	通常想定される条件で3世代（概ね75年～90年）まで、大規模な改修工事が必要とするまでの期間を延長するため必要な対策が講じられている	通気層を設けた構造に、外壁下地としてnovopan STP II を使用し、防蟻・防蟻薬剤処理が施されていることが条件になります。

※東京を想定した場合、極めて稀に（数百年に一度）発生する力は震度6強から震度7に相当

快適な暮らしを実現するLow-E ガラス採用。

アルミ窓から、
“あたらしいアルミ樹脂複合窓”に進化



■ 基本性能 ※一部仕様を除きます。

耐風圧性能：S-3

気密性能：A-4

水密性能：W-4

遮音性能：住宅性能表示 音環境 透過損失等級（外壁開口部）
等級3・等級2

※住宅型式性能認定による（ガラスの仕様により異なります）。

熱貫流率：2.33W/(m²·K)

※【平成28年省エネルギー基準】

「建具とガラスの組合せによる開口部の熱貫流率

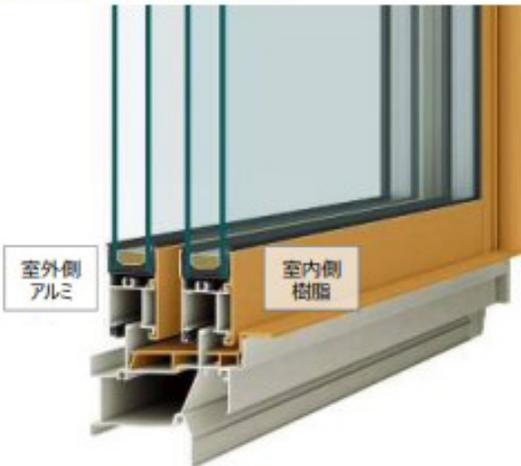
樹脂と金属の複合材料製建具+Low-E複層ガラス（中空層10mm以上）」

国立研究開発法人建築研究所ホームページ内「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報（住宅）」による。

断熱性能：「試験または計算による開口部の熱貫流率」については、当社ホームページ（<http://www.ykkap.co.jp/>）内のビジネス向けページをご確認ください。

また、「平成28年省エネルギー基準建具とガラスの組合せによる開口部の熱貫流率については、カタログをご確認ください。

アルミ樹脂複合窓

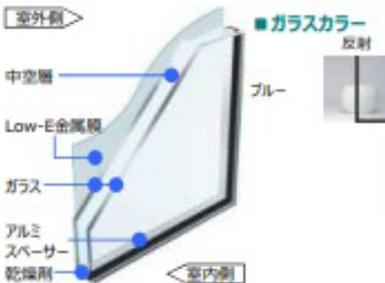


Low-E複層ガラス（遮熱・断熱）

● 遮熱タイプ

遮熱 高断熱 高防露 UVカット

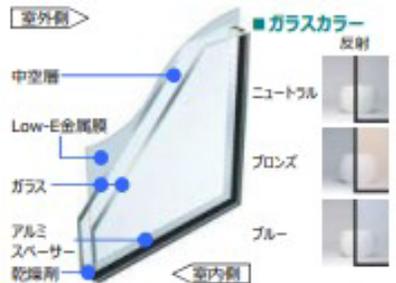
遮熱も断熱も。夏の日差しや西日の気になる窓にオススメです。



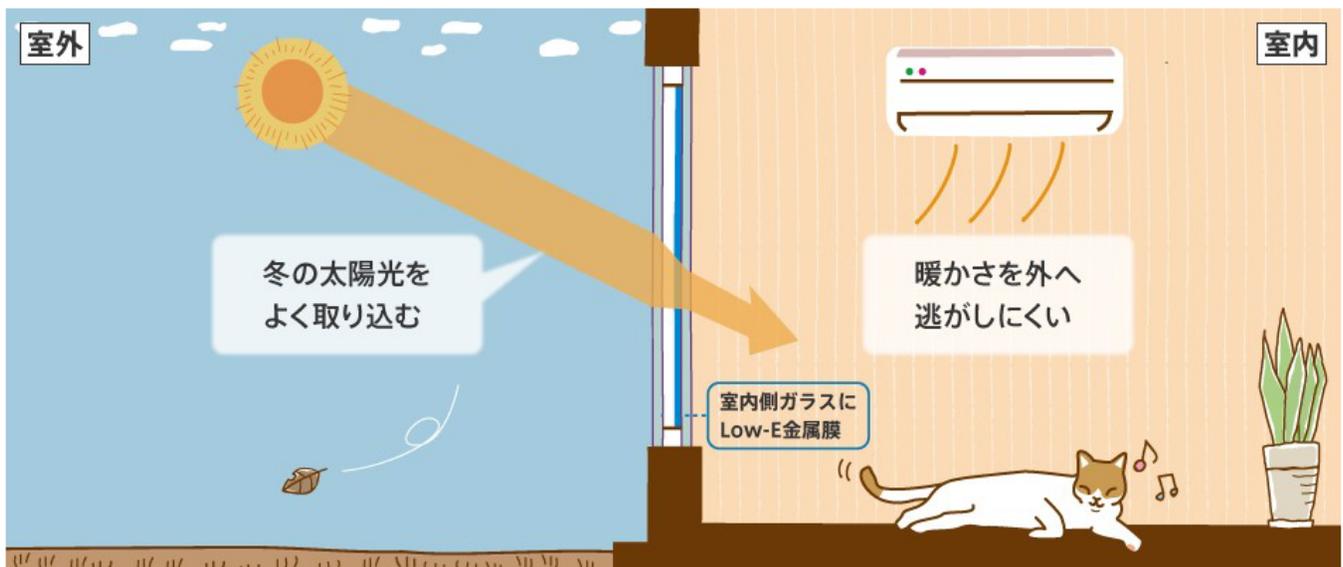
● 断熱タイプ

高断熱 高防露 UVカット

冷え込みが厳しい寒い部屋に有効な高断熱仕様。



冷え込みが厳しい寒い部屋に有効な高断熱仕様。



複層ガラスの室内側ガラスをLow-E金属膜でコーティング。断熱性を高めています。

しっかり断熱しながらも太陽の暖かさを採り込んでお部屋を暖かく保ちます。

地盤安心住宅[®]

業界唯一の10年・20年一括補償



生涯にわたり補償更新が可能です

既存住宅
地盤補償
リニューアル

例えば

対象物件の修復費用
(1事故あたり) 最大 **5,000** 万円

- 対象地盤の修復費用 (1事故あたり) 最大 **2,000** 万円
- 事故現場保存費用 (応急処置費用) (1事故あたり) 最大 **500** 万円
- 物件所有者の仮住居・転移費用 (1事故あたり) 1ヶ月 **100** 万円 (※最大2ヶ月)
- 事故原因究明費用 (1事故あたり) 最大 **30** 万円

解析基準の見える化

高度解析

国土交通省告示をはじめとする関係法令を遵守した解析プロセス。日本建築学会が示す指針や現職担保保険設計施工基準に基づいた高度解析によって、過剰な地盤改良工事を削減します。



対策提案



報告

法律で定められている検討内容の計算プロセスを開示。国土相告示1113号、小規模建築物基礎設計指針に準拠した、「支持力」「沈下量」「不同沈下量」の計算に加え、造成の状況など現場のロケーションを検討し、ベタ基礎の安全性を考察。



地盤情報の見える化

地盤安心マップ[®]PRO

地盤ビッグデータから、調査前の事前確認。地形や前歴、近隣データなどの多彩な情報から、調査地の地盤の安全性を確認します。

地盤を知り、備えることで3つの災害事故をゼロに!

「地盤安心マップPRO」は、被害予測や予防につながるさまざまな災害リスクを掲載しています。そのデータを実際の災害事例と重ねてみると、地盤の重要性を再認識する結果となりました。

令和元年台風第19号
各地で最多雨量を記録した豪雨により、千曲川が増水。長野市で過去最高水位を上回る12.46mに達し、自然堤防(洪水による土砂が堆積した土地)を破壊。水の溜まりやすい後背湿地に壊滅的な浸水被害が広がりました。

地盤安心マップPROで見る...
「浸水の可能性マップ」の危険予測地域と、実際に被災した後背湿地がほぼ一致しています。

平成26年8月豪雨
広島県広島市安佐南区では、局地的豪雨により同時多発的に大規模な土石流が発生。急傾斜地にリッチする住宅地を襲い、甚大な災害が発生させました。

地盤安心マップPROで見る...
「土砂災害危険区域マップ」では、崩れや地すべりの危険性が予測されていました。

平成30年北海道胆振東部地震
札幌市清田区(震度5強)などでは、内陸部であるにも関わらず、臨海部や河川敷で起きやすい液状化現象が発生。地区の3割超の建物や道路が被害を受けました。

地盤安心マップPROで見る...
「旧版地形図」や「標高マップ」から、被災地が谷埋め盛土で、液状化の危険性が高い土地であることがわかります。

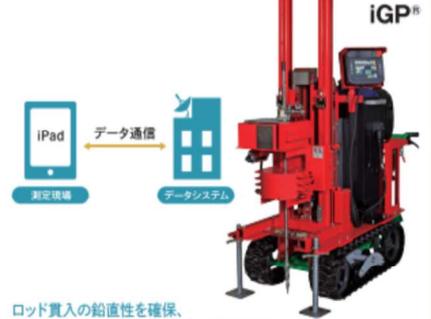
調査結果の見える化

地盤調査

手動式調査の利点である「おもりの荷重方式」を採用し、JIS規格と原理的に整合性の高い調査を実現。調査精度と操作性の向上を両立させた「グラウンド・プロシリーズ」により、安心・安全の地盤調査を提供します。

完全クローズドシステム デジタル重機 — iGP —

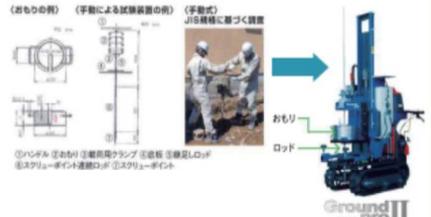
- 機械からデータシステムまで完全自社開発
- 現場で測定結果をデジタルデータ化。そのまま送信可能に
- 転記ミスや改ざんを根絶
- 情報漏洩対策も万全



ロード買入の鉛直性を確保、回転の自動化により調査結果の均質性が向上

ロード買入の鉛直性は調査結果の品質を確保するうえで重要で、「グラウンド・プロシリーズ」は、手動式では難しい鉛直性の確保が容易です。回転も自動化しており、均質な調査結果が得られることから、調査結果の信頼性が高い試験機となっています。

JIS企画準拠の地盤調査機「グラウンド・プロ」シリーズ



改良工事の見える化

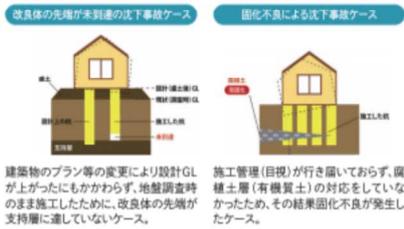
設計審査補償

工事判定には第三者の立場から地盤改良工事の工法・金額・施工内容の妥当性をチェックし、安全と安心を守ります。

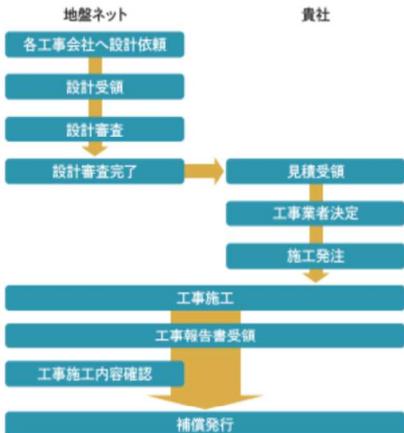
改良工事現場での重要な確認事項

- 現場に設計時とズレが出ていないか
- 現場での新たな問題点は出ていないか
- 設計通りの施工が行われているか
- 現場や作業員の安全対策は万全か
- 施工過程に問題はないか

見過ごすと...



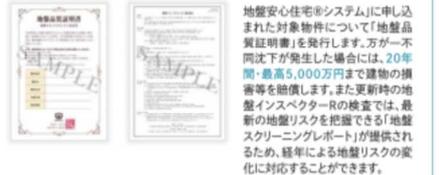
改良工事判定時のフロー



補償内容の見える化

地盤ロングライフ補償SM制度

初期補償として20年間・最高5,000万円まで対応。定期点検を受けることで20年毎の補償更新が可能です。※10年間も選択可能



地盤安心住宅[®]システムに申し込まれた対象物件について「地盤品質証明書」を発行します。万が一不同沈下が発生した場合には、20年間・最高5,000万円まで建物の損害等を賠償します。また更新時の地盤インスペクターRの検査では、最新の地盤リスクを把握できる「地盤スクリーニングレポート」が提供されるため、経年による地盤リスクの変化に対応することができます。

地盤ロングライフ補償SM制度



既存住宅地盤補償

地盤ネットによる品質証明可能な地盤に対して、既存住宅「地盤ロングライフ補償」を提供します。初期補償として最高10年間・5,000万円まで対応。また、定期点検を受けることで生涯にわたり補償を更新し続けることができます(有償)。「デジタル耐震チェック」で最新の地盤リスクを把握することで、経年による地盤リスクを定期的に発見することができます。耐震、防災に対して最適な対策を講じることが可能です。

サービス対象	全ビルダーの既存条件 (有効期間満期を迎えたすべての地盤補償に対応します)
調査	デジタル耐震チェック
補償金額	最高5,000万円
補償期間	10年間

JIOわが家の保険ならここが安心です

資力確保の方法には、「保険」と「供託」がありますが、「保険」ならではの安心があります。

建築中の現場検査が事故の発生防止につながります。

保険の加入にあたって、建築中に現場検査*を実施します。検査では建築士の資格を持ったJIOの検査員が、構造耐力上主要な部分と雨水の浸入を防止する部分についてチェックします。

*保険の引受けが可能かどうかを確認するための検査であり瑕疵がないことを証明するものではありません。

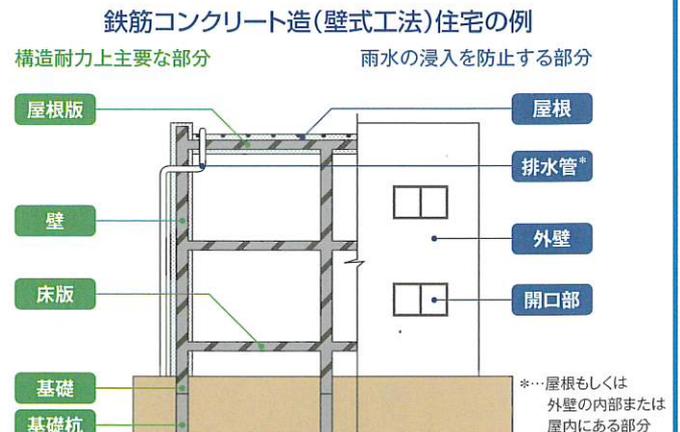
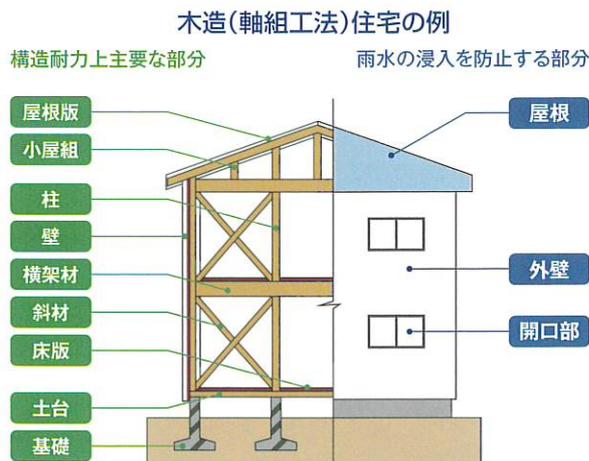
現場検査のタイミング (木造軸組工法2階建ての戸建住宅の場合 ※階数4以上の場合、検査の種類と回数が異なります。)



保険対象となる事故

対象住宅の保険対象部分*の瑕疵に起因して構造耐力上主要な部分が基本的な構造耐力性能を満たさない場合または雨水の浸入を防止する部分が防水性能を満たさない場合を「事故」といいます。

*構造耐力上主要な部分および雨水の浸入を防止する部分をいいます。



「保険」と「供託」はどこがちがう？

—住宅事業者倒産等の場合の住宅取得者様の直接請求—

供託では多棟にわたる大規模な事故が発生した場合、1戸あたりに相当する金額が少なくなります。

例えば…

過去10年間*の住宅供給数1,000戸の住宅事業者が倒産し、その後50戸の住宅で事故が発生した場合

*住宅瑕疵担保履行法施行以降

	保険	供託
支払・還付 限度額	2,000万円 (オプションコースの場合は3,000万円、 4,000万円、5,000万円のいずれか*) *1 倒産した住宅事業者の故意・重過失の場合は2,000万円	360万円 *2 (50戸同時に発生した場合) *2 供託額(1,000戸):1億8,000万円(8万円×1,000戸+1億円) 1戸あたり受取金額:1億8,000万円÷50戸=360万円

→ その後、新たな事故が発生した場合、保険では同様に保険金が支払われますが、供託では保証金を使い切った後には保証金を受け取ることはできません。

もしものトラブル解決に役立つ制度があります。

【第三者機関】

住宅紛争処理支援センター [住まいるダイヤル] への無料電話相談

住宅に関する様々なご相談を専門窓口へ無料で電話相談することができます。

住まいるダイヤル [公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センター]

電話番号：**0570-016-100** 受付時間：月～金 10:00～17:00
(土、日、祝休日、年末年始を除く)

一部のIP電話をご利用の方は、**03-3556-5147** をご利用ください。

保険付住宅に関するトラブルの紛争処理

住宅の不具合や工事内容、代金支払い等で住宅事業者との間にトラブルが生じた場合は、全国の弁護士会(52会)に設けられた指定住宅紛争処理機関の紛争処理手続きをご利用いただけます。

費用はご利用にあたっての申請手数料(1回1万円・非課税)のみです。法律の専門家である弁護士と建築の専門家である一級建築士等が、専門的かつ公正・中立の立場で紛争の解決にあたります。

※ご利用は住宅瑕疵担保責任保険付住宅を取得された方に限り、任意の保険である一般瑕疵担保責任保険付住宅を取得された方はご利用対象外です。



住宅取得者のみなさまへ

住宅のお引渡前に(住宅の契約時)

●「重要事項」の説明を受けてください。

住宅事業者より「保険内容のご案内(重要事項説明書)」を受け取り、保険内容について説明を受けてください。保険内容についてご理解いただけましたら、「契約内容確認シート」にご署名または記名押印のうえ、住宅事業者にお渡しく下さい。

住宅のお引渡後に

●「保険付保証書」をお受け取りください。

JIOは住宅事業者へ「保険証券」を発行する際、あわせて住宅取得者様向けの「保険付保証書」を送付しています。住宅事業者よりお受け取りいただき、大切に保管してください。